

# 子どもの表現を導く音楽指導について — 4歳児を対象としたリズム活動の一考察 —

岡田 泰子<sup>1)</sup>

## Music Instruction to Lead the Expression of the Child Rhythm Activity for 4 Years Old Children

Yasuko OKADA

筆者は乳幼児を対象とした保育現場で、音楽あそびに携わっている。2016年度から現在まで継続している幼稚園での実践では、保育者自身も音楽あそびに関わりを持ち、日常の保育・教育を通して、音楽あそびの実践が継承されている。本稿では、筆者が2018年度に行った4歳児を対象とした音楽あそびの実践と、担任保育者の保育指導計画及び保育指導案を検証するとともに、音楽指導の課題を明らかにすることとした。その結果、今後は表現を中心としながらも5領域全体を視野に入れ、環境、健康、言葉、人間関係との関連性も含めた指導の在り方を検討することが必要であると推察された。

キーワード：保育・音楽・子ども・表現・指導計画

### はじめに

新幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容における感性と表現に関する領域「表現」では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」と示されている。また、第1章総則の第2に示される幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・一体的に育むよう努めるものとある。更に、第2章ねらい及び内容に基づく活動全体によって育む資質・能力の10の姿が具体的に挙げられている。中でも(10)に挙げられた豊かな感性における「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現す

る過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」とある。

筆者は乳幼児を対象とした保育現場で、音楽あそびに携わっている。2016年度から現在まで継続的に実施している幼稚園での実践では、保育者も子どもと共に音楽あそびに関わりながら、日常の保育・教育においても、音楽あそびの実践が継承されている。そこで筆者が2018年度に行った4歳児を対象とした音楽あそびの実践と、担任保育者の保育指導計画や保育指導案を検証するとともに、新幼稚園教育要領も併せて、音楽指導の課題を明らかにすることとした。

### I. 音楽あそびの現状

#### I-1. 目的

新幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容における領域「表現」における「ねらい」には、(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。

1) 短期大学部幼児教育学科

(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむとある。また「内容」には、(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。とある。更に、「内容の取扱い」について、(1) 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。とある。(下線部は、新幼稚園教育要領で新たに加筆された文言である。) 本実践研究では、筆者が実践した音楽あそびの展開がこれらの視座をふまえられたかどうか、また、対象とした4歳児クラスの担任が行った音楽あそびの指導案・指導計画・を検証し、双方の音楽あそびがマッチングし、子どもにとって相乗効果をもたらすことが出来るような音楽指導であるかを検証することを目的とする。

任が行った音楽あそびの指導案・指導計画・を検証し、双方の音楽あそびがマッチングし、子どもにとって相乗効果をもたらすことが出来るような音楽指導であるかを検証することを目的とする。

## I-2. 方法

対象者：S幼稚園4歳児43名（2クラス合同）

期間：2018年4月～10月

手続き：筆者による音楽あそびの実施と保育者による音楽あそびの指導案及び指導計画の検討

## II. 実践内容と結果

### II-1. 音楽あそびの現状

筆者による音楽あそびの実践は以下の通りである。

表1 音楽指導内容

ねらい	『音の強さ（大小）を感じられる』：音の変化に気付き、自分なりにイメージして表現することの楽しさを味わうことができる。
第1回	2018年4月23日（月）9:40～10:10
指導内容	リトミック：「小さい畑」「チューリップ」
第2回	2018年5月28日（月）10:55～11:25（保護者参観）
指導内容	リトミック：「新聞紙であそぼう」
第3回	2018年6月11日（月）9:40～10:10
指導内容	歌唱指導：「アイアイ」「スターマンのうた」

筆者は、幼稚園側からリトミックの要請を受け現場に携わっている。リトミックの必要性和効果について板野（1975）は、精神の集中力を高める、心と身体との調整、反応力を高める、反射性を持たせる、自動性を持たせる、記憶力を高める、思考力を高める、想像力を高める、創造性を持たせると述べている。さらに、以上のような能力を高め、幼児を心的にも身体的にも自由にして、自然な発達を遂げるように、その才能を引き出す場をつくるのがリトミックのねらいであるとも述べている。

第1回で行ったリトミックでは、季節を題材にした音楽あそびを展開した。ねらいにある「音の強さ

（大小）を感じられる」に焦点を当てた。「小さい畑」では、ダイナミクスの大中小を歌いながら、手足を動かし、全身で体感する表現あそびを実施した。子どもたちは、小さい～大きいまでの徐々に変化する畑、種、花の大きさに期待感に溢れる表情で、表現の幅の面白さに気づくとともに、音のもつエネルギーの違いを発見することが出来たと推察される。また、「チューリップ」では4歳児の声域を鑑み、無理のない発声とともに、季節感や、自然の花をイメージしながら、風に揺れる花を想像したり、リズムに合わせて、リズムパターンをステップしたりした。「チューリップ」の歌詞にある「さいたさいた」

のリズムパターンは、「いないいないばあ」や4歳児の発達にふさわしい「じゃんけんぽん」、「ケンケンパー」など乳児期から親しんでいると思われるリズムと同様であり、すでに身に付いていると推察するリズムを歌に合わせてステップする楽しさを、生き生き表現する様子が伺えた。

第2回では、保護者参観日と兼ね、リトミックを中心に親子のふれあいを楽しむことを目的とした音楽あそびを展開した。身近な素材であるチラシを用いて、「紙飛行機：イカ飛行機」を作り、親子でキャッチしながら声を出して飛ばしあったり、新聞紙を丸めてボールにして転がしたり飛ばしたりと双方向のコミュニケーションを楽しんだ。また新聞紙を用いたリトミック「グシャグシャサンバ」では、新聞紙の音を出す楽しさ、音を聞く楽しさ、歌に合わせて、身体を動かすことの楽しさを体感する姿があった。坂本（2003）は、音楽の持つ緊張と弛緩を体験することは、子どもにとって大変重要なこと、また、音楽を始める前に、実際の新聞紙を破いたり、まるめたり、ちぎった新聞紙を投げっこしたり、十分に遊んでおくことも述べている。さらに、実際に遊んだ印象をイメージしながら新聞紙は使わずに、動作を行うことも述べられている。このことは、音楽を使う前段階にあそぶことに満足できる環境が大切であると考ええる。以上のように、造形あそびの要素も取り込むことで、より豊かな表現あそびが可能になったと推察される。

第3回では、祖父母参観日に発表する歌唱のため

の指導を展開した。クラス担当者からの選曲された2曲を用いた。「アイアイ」では、冒頭のかけあいの部分を2クラスに分かれ、やまびこの様に歌うことや、手を動かしながら歌うこと、また、高音の声の発声の在り方、また「スターマンのうた」では冒頭の擬音の連続をあそびの要素として活かしたいとの保育者の提案があった。これらをふまえ、集団として2クラス合同での音のダイナミクスを味わう機会に加え、仲間の中の自分、また、仲間の良さや違いについて気づく場面として協同性を育む場としての環境づくりに努め展開した。高浜ら（2003）は、4歳児半頃に発達の質的転換期があるにとらえていると述べている。さらに、この時期は、自己の経験と、その経験をとおした自己の感情、思いを仲間に伝え、他者の経験や思いをわがことのようにとらえるという力が育つ時期とも述べられている。また、自己の思いと他者のそれとを相互に媒介し、経験の共有化をはかるためには、それにふさわしい仲間関係の確立が不可欠であると述べられている。子どもたちは、様々な歌唱法を通じて、あそび要素をふまえた展開に、音楽への魅力と関心を寄せ、生き生きとした歌の響き、顔の表情であったと推察された。その姿からも、集団歌唱の大切さがあらためて重要であると考ええる。

## Ⅱ-2. 音楽あそびの現状

保育者による音楽あそびの実践は以下の通りである。

表2 S幼稚園における研究内容

研究主題	いきいきと「あそび」に親しみ、自分を表現できる子－「音楽あそび」を中心に、園児の感覚や感性を伸ばし、表現力を高める－
研究課題	実技研修：『音楽あそび（リトミック）』を体験し、実践を積み重ねることによって、園児の主體的な取組や豊かな感性と表現力を伸長させるための指導法を学ぶ取る。 園内研究：年1回以上、各学級で『音楽あそび（リトミック）』の教育・保育を公開し、それぞれの指導力の向上を図る。
願う園児の姿	4歳児：『音楽あそび』を意欲的に取り組み、自由な発想で表現する楽しさを味わう。

表3 園内研究会内容

教育・保育指導案

平成30年10月29日(月)

T組(4歳児)22名 男児15名 女児 7名

担任:1名 副担任:1名

支援員:2名

1. はじめに

講師から受けた、「子どもたちの経験の中からイメージを沸かせることや、喜んで取り組んでいることをリピートしたり、アレンジしたりすると良い」という指導を基に、今年度も教師が子どもの輪に入り、一緒に楽しむことを大切にしながら実践を重ねてきた。

クラス活動の中で、季節の歌を歌ったり、身体を使ってリズムを感じられるような手遊びを多く取り入れたりしてきた。初めは、歌いながら手を動かすことが上手く出来ない子が多くいたが、今では、得意げな表情で真似をしたり、子どもたち同士で手遊びを楽しんだりする姿が増えてきた。そこで、二学期に入り、より友達と楽しめる活動として、「椅子取りゲーム」や「わらべうた(なべなべそこぬけ・あぶくたった)」など、簡単なルールのある遊びを取り入れてきた。

今回の「音楽あそび」では、一人一人が音に合わせて動くことでゲームのルールを知り、クラス全体で音楽あそびの楽しさを共有できるような活動の実践をしたい。

2. 活動名

『みんなで!フルーツバスケット!!』

3. 学級の実態 ○成果 ▲課題

(1) 生活の様子

○新しい活動への期待感が大きく、意欲的に取り組む姿が見られる。

○友達の頑張っている姿を見て、応援したり、優しく見守ったりする姿が見られる。

▲生活の流れの見通しがもてず、一つ一つ教師に確認することが多く、自分で考えて行動に移すことが苦手な子がいる。

▲教師の話の途中で集中が途切れたり、行動に移した時に指示されたことを忘れてしまったりする子がいる。

(2) 遊びの様子

○気の合う友達と声を掛け合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている。

○折り紙や広告を使った遊びに夢中になって取り組み、その中で自分なりに工夫する姿も見られる。

▲友達とイメージを伝え合いながら、遊びを深めていく力は、まだ弱い。

▲自分の思いを伝えられずに泣いて教師に訴えたり、声を掛けてもらうのを待ったりする姿がある。

(3) 音楽あそびの様子

○自分のイメージしたものを素直に表現しようとする。

○曲やリズムに合わせて、友達と触れ合いながら遊ぶ楽しさを感じている。

▲伸び伸びと表現する中で、楽しくなり過ぎると周りが見えなくなり、音に合わせる意識が弱くなる。

▲恥ずかしさや不安から、参加する曲や動きが偏ってしまう子がいる。

#### 4. 指導計画（4月～10月）

表4 4歳児クラスの音楽あそび指導計画

月	活動名	内容（表現や活動のポイント）
4月	●新しいクラスを覚えよう！ ・『たんぽぽ』（手遊び）	「たんぽぽ ぽっ」の手遊びに合わせ、クラス名を覚える。 たん…手をたたく ぽぽ…肩をたたく ぽ…ほっぺを叩く。
	●歌に合わせて表現を楽しもう！① ・『ちょうちょう』 ・『チューリップ』	・両手を広げ、「ちょうちょう」になりきり表現する。 ・ペアになって手を繋ぎ、「チューリップ」の曲に合わせ、左右に揺れる。
	◎音楽指導①（4月23日） ・『小さな畑』 ・『チューリップ』	・大きい、小さいを表現する。 ・リズムに合わせて、ケン・ケン・パツをする。
5月	●なりきって楽しもう！ ・『かえるのうた』 ・『かたつむり』	・歌に合わせて、「かえる」や「かたつむり」になりきって自由に表現する。
	●動物になって遊ぼう！①	・動物のカードを見て、反応して動く。 ・オルガンの音や速さに合わせて、それぞれの動物の動きを自由に表現する。
	◎音楽指導②（5月28日）：参観日 ・新聞紙で遊ぼう！	・親子で新聞あそびをする。 （いか飛行機・新聞くしゃくしゃ・新聞ボール投げ）
6月	●しゃぼん玉を飛ばそう！	・「しゃぼん玉」の曲に合わせて、手でしゃぼん玉を表現する。 ・友達と手をつないで輪になり、大きなしゃぼん玉を表現する。 ・タンバリンの合図で、割れる様子を表現する。 ・風に吹かれて飛んでいく様子を表現する。
	●考えてみよう！①	・（CDの）「やおやさんのうた」に合わせて手拍子しながら、答えを考え、リズムに合わせて答える。
	◎音楽指導③（6月11日） ・祖父母参観日の合唱指導 ・『アイアイ』 ・『スターマンのうた』	・“アイアイ”になりきり曲に合わせて身体を動かす。 ・掛け合いの指導を受ける。 ・遊びを通して歌のイメージを伝える。
7月	●歌に合わせて表現を楽しもう！② ・『みずあそび』	・「みずあそび」の歌に合わせて、水に見立てたスズランテープを揺らしたり、飛ばしたりし、水遊びを表現する。 ・「みずあそび」の歌に合わせて、水に見立てたスズランテープを大きな布に投げ入れる。 ・「水が溢れる」様子を繰り返し、「みずあそび」を楽しむ。
	●考えてみよう！②	・「なあに、なあに、これなあに？」と問い掛け、カードに描かれている物の名前を答える。 ・テンポをゆっくりから速く変えていく。
	●考えてみよう！③	・「なあに、なあに、これなあに？」と、カードを一部分しか見えないようにし、隠された物を、色や形でイメージして答える。 ・速いテンポで行う。



9月	<p>●歌に合わせて表現を楽しもう！③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『とんぼのめがね』</li> <li>・『おおきな栗の木の下で』</li> <li>・『どんぐりころころ』</li> <li>・『まつぼっくり』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を広げたり、歌詞に合わせて動いたりして、自由に表現する。</li> <li>・音に合わせて大きな木や小さな木を表現する。</li> <li>・歌詞に合わせて動きながら歌う。</li> <li>・ペアで向き合って「とん・とん・ぱっ・ぱっ」とリズム打ちをする。</li> </ul>
10月	●動物になってあそぼう！②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて散歩に出掛け、「チャンチャチャチャンなあにかな？」と、動物に出会う。</li> <li>・出会った動物になりきり自由に表現する。</li> </ul>
	●果物大好き！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて果物を探しに出かけ、発見する喜びを表現する。</li> <li>・季節の果物を見つける。</li> <li>・オルガンの高い音に合わせてジャンプして採る。</li> <li>＊タンバリンの合図で果物が落ち、音楽に合わせて拾い集める。</li> </ul>
	<p>●全員で遊ぼう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『あぶくたった』</li> <li>・『なべなべそこぬけ』</li> </ul> <p>・椅子取りゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞に合わせて動き、表現を楽しむ。</li> <li>・大きな円になり、全員で歌いながら（一つの穴から）手を離さないようにひっくり返る。</li> <li>・音を聴きながら、スピードや音が止まることを意識して、楽しむ。</li> </ul>
	●考えてみよう！④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なあに、なあに、これなあに？（形）」「なあに、なあに、これなあに？（色）」「なあに、なあに、これなあに？（臭いや大きさ）」の3ヒントで、イメージした物を考え、答える。</li> </ul>
	<p>本時</p> <p>●みんなで！フルーツバスケット！！</p>	＊詳細は、表5 参照

## 5. 本時のねらい

- ・伴奏に合わせて歩く中で、音に反応して動くことができる。
- ・曲に合わせて、友達と一緒にゲームを楽しむ。

## 6. 本時の内容

これまでに行ったあそび

### ＊果物大好き！

- ・伴奏に合わせて歩き、音の高低に反応して、変化を表現する。

### ＊考えてみよう！

- ・「なあに なあに これ なあに？」と口ずさみながら、テンポよく答える。

本日、初めて行うあそび

### ＊『みんなで！フルーツバスケット！！』

- ・曲に合わせて、ルールを守って、友達と一緒にゲームを楽しむ。

## 7. 本時の展開 【本時のねらい】・伴奏に合わせて歩く中で、音に反応して動くことができる

- ・曲に合わせて、友達と一緒にゲームを楽しむ。

表5 園内研究会における指導案

時間	園児の動き等	担任の動き	副担任の動き
0:00 <div>導入</div>	<p>●今日の活動の流れを聞く。</p> <p>○八百屋さんの手遊び（フルーツ屋さんバージョン）を楽しみ、テンポよく答えていく。</p> <p>○秋の果物を知り、次の活動へ期待の気持ちをもつ。</p>	<p>●子どもの豊かな表現を引き出すよう、子どもの反応や動きを見ながら、伴奏や効果音等を弾き、指導・支援する。</p> <p>○テンポよく手遊びをする。（カードを使用する）</p> <p>○活動への期待の気持ちをもてるよう話をする。</p>	<p>●全体の流れと、配慮を要する子どもの動きに留意しながら、指導・支援に当たる。</p> <p>○子どもたちが、楽しく表現できるよう教師も楽しく表現する。</p> <p>○担任の声掛けに注目できるように促す。</p>
0:03 <div>遊びにひたる</div>	<p>●音に合わせて、果物狩りをする。</p> <p>○教師の伴奏に合わせて、果物狩りに出掛ける。</p> <p>○果物狩りに行きながら、音の高低に合わせて、ジャンプや足踏みで果物を取る。</p> <p>高音：ジャンプ 低音：ドンドンと足踏み</p> <p>○ジャンプや足踏みをして、落とした果物を拾い集める。</p>	<p>○楽しく果物狩りに出かけられるよう、リズムよく伴奏する。</p> <p>○ジャンプや足踏みができるよう、伴奏を工夫する。</p> <p>ジャンプ：高音で弾むように弾く 足踏み：低音で力強く弾く</p>	<p>○子どもたちと楽しく果物狩りに出掛ける。</p> <p>○ジャンプしたタイミングに合わせ、果物を落とし、拾えるようにする。</p>
0:08 <div>遊びを深める</div>	<p>●フルーツバスケットを楽しむ。</p> <p>○好きな果物を選び、果物ごとのグループになる。</p> <p>※4種類（ぶどう・なし・かき・りんご）：6名ずつ</p> <p>○円になって椅子に座る。</p> <p>○曲にあわせて行うことでルールを知り、ゲームを楽しむ。</p> <p>♪フルーツバスケットだよ！フルーツバスケット よく聞いてごらん 考えてごらん</p> <p>♪（チャンチャチャチャン） なあに「りんご」</p> <p>○呼ばれたグループの子は、座る場所を変える。</p>	<p>●音楽に合わせて、ゲームを楽しめるようにする。</p> <p>○好きな果物を選ばせる。均等になるように、子どもに声を掛け、調整する。</p> <p>○友達と円になり歌うことで、楽しい気持ちで歌えるようにする。</p> <p>○教師が鬼を数回回り、ルールが伝わったところで鬼を子どもに変えて挑戦させる。</p> <p>○ゲームを進行しながら、友達と一緒に楽しめるような声掛けをする。</p> <p>○繰り返し楽しめるように、移動する果物の数を増やす。</p>	<p>●子どもたちが音楽に合わせて、ゲームを楽しめるように伴奏する。</p> <p>○子どもが楽しく手拍子できるように、伴奏する。</p> <p>○繰り返しを楽しめるように、伴奏で盛り上げる。</p>
0:18 <div>振り返り</div>	<p>●振り返りをする。</p> <p>○活動に対する思いを話す。</p> <p>・楽しかったことを思い思いに話す。</p> <p>○早く座るコツを考える。</p> <p>・ピアノの音をよく聴くといいと話す。</p> <p>○次回への期待の気持ちを話す。</p>	<p>○リズムに合わせて身体を動かす心地よさを共感する。</p> <p>○どうやったら上手く座ることができたのか質問する。</p> <p>○ゲームのルールの大切さや、みんなでルールを守ることで、よりワクワクすることを伝える。</p> <p>○また、クラスで楽しめることを伝える。</p>	<p>○話に集中できるよう、子どもたちに寄り添う。</p> <p>○子どもたちと一緒に楽しかった思いを共感する。</p>

園内研究会開催後、指導・講評として、園内の保育者とともに振り返りを行った。振り返りの視点として、

- ① 伴奏に合わせて歩く中で、音に反応して動くことができたか。
- ② 曲に合わせて、友達と一緒にゲームを楽しめていたか。

の2点が挙げられた。①について、伴奏に合わせて歩くまでの導入部分で、期待感が高まる工夫が見られたことは、前述の坂本（2003）が述べている、音楽を使う前段階にあそぶことに満足できる環境が大切であることと重なる点であることと推測する。②については、ゲーム性のあるあそびは、ルールの理解を伴う。「動き」のある楽しさを誘発する動的活動と、ルールを理解し、それを守るための、「聞く」静的活動である。集団の中でゲームを成立させるためには、この2つの活動が必要になってくるであろう。静と動の活動を、バランス良く子どもたちに提供していく環境づくりの大切さを、あらためて問い直すことを気づかされた園内研究であったと推察する。

### Ⅲ. 考察

幼稚園で実施した筆者と保育者の音楽あそびの現状を明らかにした。筆者が行った音楽あそびでは、音楽という枠組みを超え、造形や身体も融合させた表現あそびに発展させた。これと関連させながら、保育者による音楽あそびも、音楽、造形、身体、言葉など、表現に関わる全てを統合させた展開であったのではないかと推察する。またこのことから、いずれも幼稚園教育要領における領域「表現」を網羅しているのではないかと考えられる。

また、2018年度のまとめとして、3月には1年間の振り返りとして、筆者が推察した子どもの育ちについて、幼稚園に伝えた内容は以下の通りである。

幼稚園の温かな環境からの安心感を基盤として、子どもたちは思い思いの自己表現を、伸びやかに出すことの出来た1年であったと推察した。音楽あそびにおいても、子どもたちの生き生きと活動する姿が多数見られた。例えば、水を得た魚のように遊戯室の空間を余すところなく喜んで歩いたり走ったり

する姿や、速度や音の強弱の変化に反応する場面(即時反応)では、次にどんな変化が起こるのか、仲間とで顔を見合わせ微笑み合いながら期待感を持つ姿が散見された。「聞く」から「聴く」へ、また、「聞く」から「聞き分ける」へ、「聞く力」が著しく成長したのではないかと推察する。保育者が、日常において、メリハリのある姿勢を子どもたちへ伝え、切り換えの出来る姿が育っているのではないだろうかと思われた。

このように、音楽あそびは、音楽性の向上や表現力向上のみならず、子どもの生活を支え、豊かに生きる力を育てる側面があること、またこの力は学びに向かう力に通ずるものと推察される。

### Ⅳ. まとめと課題

今回2つの音楽あそびの実践を検証し、各々が幼稚園教育要領における領域「表現」をふまえた活動であったことが明らかになった。また、保育者と筆者間の双方向で、音楽あそびの事後その都度振り返りを行い、音楽指導の目的や方法を共有、確認することが出来た。これらのことは、幼稚園における継続的な音楽あそびのねらいが定着し、子どもたちにとって、より効果的な実践に繋がったのではないかと考える。

小田（2001）は、保育の中で子どもがのびのび表現する、そのためには、まず何といっても子どもの感性が解放され、感性的なやりとりが活発にできるような保育室の雰囲気が前提となる。すなわち自己表現に向かわせる最大の条件は、表現の場である集団のあり方、つまり保育室の人間関係のあり方ということになると述べている。また、岡村ら（2002）は、幼児期を一括りにするのではなく、もっとも葛藤の集中すると思われる4歳児を焦点に、「自我」から第二の自我形成にあたる自己コントロール力の形成をめざし、その能力をつけていくプロセスの研究が急務なのではないかといえようと述べている。これらのこともふまえると、今後は5領域全体を視野に入れ、表現を中心としながらも、領域環境、健康、言葉、人間関係との関連性も含めた指導の在り方を検討することが必要であると思われた。



## V. 謝辞

本実践研究にあたり、S 幼稚園の先生方には、音楽あそびをはじめとし、指導案及び指導計画、また園内研究会の実施など、多大なるご理解とご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

## 引用文献

幼稚園教育要領（平成29年公示）フレーベル館  
板野平(1975) リトミック・プレイルーム ひかりのくに

高御堂愛子・植田光子・木許 隆他(2018) 楽しい音楽表現 圭文社  
坂本真理子(2003) こんにちは！リトミック オブラ・パブリケーション  
高松介二・秋葉英則・横田昌子(2003) 4歳児の保育 ルック  
小田豊(2001) 子どもの心をつかむ保育者 ひかりのくに  
岡村由紀子・金田利子(2002) 4歳児の自我形成と保育 ひとなる書房